

ピラミッド・パワーに秘められた短期願望実現効果

ピラミッド・パワーの新局面を考える

ピラミッド・パワーであなたの願望を実現する——これが今月の実用スペシャルのテーマである。

そんなバカな、という人もいるだろう。また、なんで今ごろピラミッド・パワーなの？ という人も、なかにはいるかもしれない。

しかし、ひょっとすると、カミソリの刃を鋭くするとか、ものを腐りにくくするとかいったことよりも、願望実現こそ

ピラミッド・パワーは幻なのか？

さて、ピラミッド・パワーの物理的な検証報告には、どんなものがあるのだろうか。ここでざっとおさらいをしておこう。

一説によると、ピラミッド・パワーの存在は、1929年、すでにシンシナティ州立大学の物理学教授、サミュエル・ジェイムズ・マッキントッシュ・アレックによって指摘されていたという。また、1935年にはシカゴ大学のジョン・ホールという人が実験を行っていたともいわれる。

だが、大きく注目をあびたのは、1970年にシーラ・オストランダーとリー

が、ピラミッド・パワーの最大の効用な

のかもしれないのである。

これまでピラミッド・パワーは、物理的な次元でのみ検証されてきたようだ。それについてはこの後で詳しくみていくが、実のところピラミッド・パワーは、もともと奥の深いパワーだと思われる。そのあたりまで考えてみようというのが、今回の実用スペシャルのねらいである。

ン・シュローダーの2人の女流ジャーナリストによるベストセラー『鉄のカーテンの彼方の精神世界の発見』(※①)の中で紹介されたことによるものである。以後、多くの人々によってさまざまな研究、実験が重ねられてきたのは、本誌の読者ならよく存じだろう。

しかし、その中には、ピラミッド・パワーなどというものは幻にすぎない、という主張も少なくない。

たとえば、アメリカのニュー・オリンズ大学の歴史学准教授(教授と助教授との間の地位) ウィリアム・H・ステイビング・ジュニアによると、「カナダのグ

は安心した。

このことは、かつてあわれな奴隷の体に灼熱した剣を差し込んで鍛えたという話を私に思い出させた。この方法は今でもうまくいくだろうが、それはもつと実際のには鋼鉄を空素と化合させるということであり、多かれ少なかれ、昔の人々はそのことを知らずに行っていたのである(※③)

つまり、放っておかれたカミソリの刃が鋭くなるのは、空中の空素の影響にすぎないと彼はいうのだ。

状態をいい方向に向けるエネルギー

たしかに、ピラミッド・パワーの効果については、もうひとつはつきりしないところがあるのは事実である。

しかし、たとえば「サンデー毎日」1984年10月14日号に写真入りで紹介されている甲南大学文学部の佐藤明雄教授の実験はそうではない。前年の11月からプラスチック製のピラミッドの中に入れたミカンが「1年近くたつが、少々乾燥気味で重量が減ったという以外、変化はない」というような、明らかに普通では起こりえないと思われるような現象が起きていたのである。

もちろん、比較用にピラミッドの外に出して放しにしていたものは「完全に腐り、形も崩れて」いたという。

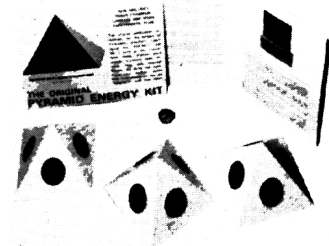
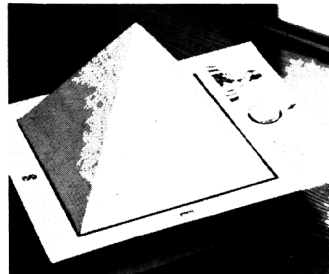
同誌によると、佐藤教授は「ピラミッド・パワーは、カミソリの刃が鋭くなった、種の発芽率がよくなった、食べ物

エルフ大学園芸学部は、植物の成長に何の影響も与えなかったということを明らかにしている」という(ただし、彼はなぜかここだけ出典をあげていない)。

また彼は「動物の死体やカミソリの刃などの物体を用いた、その他の科学的に管理された実験は矛盾した結果を示しており、あらゆる変数を除いたとしても、同じ結果しか残らなかった」とも述べている(※②)。

また「ユリ・ゲラーの反撃(騎虎書房)」によって日本でもその名を知られている英国のジャーナリスト、ガイ・ライオン・ブレイフエアーは、次のような見解を述べている。

「ピラミッド・パワーは、最近大きく取りあげられており、ピラミッドの模型の



◆◆ピラミッド・パワーを実験するためのモデルには、いろいろな種類のものがある。

ワトソン博士は次のように述べる。

「しかし、私はそれが効果のあることはよく知っている。ウィルキンソンの替刃についての私の記録では、毎日続けて4か月使用に耐えた。(中略)」

私は、有機物質の脱水速度は、含まれている物質と気象条件とに非常に依存していることを発見した。これはたいいていの人々が予想することだろう。しかし私は、同じ物体——卵、ランプ・ステーキ(牛の尻肉のビフテキ)、ハツカネズミの死体——をピラミッドと普通の靴箱とに入れて置いてみた。そして、ピラミッドの中のもの、まったくよい状態で保存され、箱の中のものとは間もなく臭いはじめ、捨てなければならなかった。

私は、ケオプスクフ・ピラミッドのボール紙の複製は、紙片の単なるデタラメな配置ではなく、特別な性質を持つて



- 参考文献 ● ※①邦訳「ソ連圏の四次元科学(上・下)」(たま出版) ※2「古代の宇宙人飛行士、宇宙の衝突その他の人類の過去に関する人気学説」(1984) ※③「不明確な境界線」(1977) ※4「スーパーネイチャー」(葦樹書房、1973) ※⑤「未知の探検——大いなる謎の再検討」(1979、邦訳は「超古代史の真相」東京書籍。なお、邦訳では、ピラミッド・パワーに関する部分は割愛されている) ※⑥「THE COMPUTER」1987年12月号掲載「呉智英のトーク縦横無尽・イメージと科学的錯誤3 優性と劣性」(日本ソフトバンク)